

第 34 回小豆島オーリーブマラソン全国大会

右城 猛

小豆島オーリーブマラソン全国大会の 10km に家内と参加した。この大会は毎年、5 月の第 4 日曜日に開催されている。昨年はマラソン前日が、今年は当日が 22 日で私の誕生日であった。

高知を 11 時過ぎに出発。高松西インターを降りて「釜揚げうどん てら屋」でうどんを食べて、高松港からフェリーで土庄港へ。

坂手港の会場で受付を済ませ、参加賞やゼッケンを受け取ってから、午後 3 時過ぎにホテルにチェックインする。



部屋から眺めた内海。時間と共に内海の風景が少しずつ変化する。ゆったりとした気分になる。



宿泊したベイリゾートホテル小豆島。申し込みが遅くて、小豆島町内で宿泊できるのはこのホテルしかなかった。坂手港マラソン会場まで 1.5km と近いのがとても便利。

会場付近の国道 436 号は、大会が終わる 13 時まで車両通行止めになっている。会場の駐車場に車を置くと、13 時以降でないと帰ることができない。ところが、ホテルに車を置いておけば、ホテルまで徒歩で帰り、ホテルから車の乗って帰ることができる。

このホテルに泊まったお陰で、渋滞に巻き込まれることもなく、池田港 13 時発のフェリーに乗船することができた。



私たちが走る 10km のスタートは 10 時 14 分。まだ、90 分以上ある。



着替えなどの入ったリュックサックを手荷物預かり所で預かってもらう。私が着ているランニ

ングウェアは、妻と娘達からの誕生日のプレゼント。



左のステージで開会式が行われる。



小豆島町と姉妹都市になっている長崎県南島原市から参加された男女による選手宣誓。

島原の乱によって無人状態になり、荒廃した島原の農地を復興するために、当時天領であった小豆島から「公儀百姓」として農民が集団的に移住した。そのような縁から、昭和 58 年に姉妹都市の盟約を結んでいる。



ステージ上にある聖火に火がつけられた。



選手宣誓をした二人に、地元の子供から花束が贈呈された。



大会長である塩田幸雄小豆島町長の挨拶。



参加者に、燃やせるゴミ、ビン、カン、ペッド

ボトルに分別するマナーに対する協力を要請する「ゴミ分別戦隊 エコレンジャー」



仮設トイレは長蛇の列。男性用のトイレは少ないが回転が速い。女性用はトイレが多いが時間がかかる。



第34回目となる今年の参加者数は4757人。出場者の最高齢は、高知県から参加している青木壮太郎氏で89歳。80歳以上が13名いる。そのうちの5名は10kmランナー。驚きである。

開会式の途中から雨が降りだした。去年はスタート直前まで、大会が中止になるのではないかと思えるほどの大雨で、とても寒かったが、今年は雨も大したことはなく、走るには絶好の天気。

このマラソンは、島内で計68人の犠牲者を出した1974、76年の豪雨災害からの復興を掲げて、1978年に第1回が開催されている。雨に縁がある大会かも知れない。



昨年と同様に、スタートすると雨が止んだ。このため、雨合羽を脱いで腰に巻いて走る。完走して、服を着替えて、接待の素麺を御馳走になる。

私のタイムは1時間7分51秒。1550人中955位。昨年12月の「安芸タートルマラソン全国大会」のタイムが1時間10分33秒であったので、2分42秒縮まった。2009年11月の「坊ちゃん一緒にらんランRUN」は、1時間15分04秒。毎年わずかであるが確実に記録が伸びている。この年になって、進化していると思えるのは、マラソンだけである。

家内のタイムは1時間8分6秒。安芸タートルの1時間6分36秒を切ることは出来なかった。



会場となっている坂手港には、800人乗りの大型フェリー・サンフラワーが停泊していた。マラソンに合わせて臨時に就航しているもので、大阪南港から500人のランナーら乗客を乗せて、昨日の午前11時に坂手港に到着したようである。

(2011.5.23 日記)